

理事長挨拶

学校法人 加計学園
理事長・総長 加計 晃太郎



新型コロナウイルス感染症によるパンデミック下での生活も3年目に入り、教育現場においても通信技術を活用したオンライン授業と従来の対面授業を併用する新しい教育が定着してまいりました。全国的にワクチン接種が始まり、本学園においても接種の加速化を図るため、岡山理科大学、千葉科学大学を会場に職域接種に取り組み、学生・教職員のみならず、地域の方々の感染予防にも努めました。

本年度は第1期中期計画（2017～2021）の最終年度として、計画の実施状況及び目標達成状況の評価を行いました。今後、教育機関に求められているのは「新たな価値を創出できる人材の養成」であります。その人材養成に必要な能力を養う教育を実践する体制を整備すると同時に、本学園の特徴と強みを活かした私学教育を展開しました。達成状況を述べますと、最大の成果は平成30年に愛媛県今治市に獣医学部を開設できたことでした。創立者加計勉の夢でもあった獣医学部の設置は様々な困難や試練もございましたが、多くの方々のご支援により国内では約半世紀ぶりの学部新設となり、地元市民の方々とも喜びを共にすることができました。教育については「学生生徒の成長」を第一として基礎教育を再構築すると共にLMSの導入により学習効果を高め、学生個々が成長を感じられる仕組み作りをしました。研究力につきましては、設置する3大学で科学研究費補助金の新規採択数を毎年約10%増で伸ばし5年間で207件となりました。また、重要課題としていた内部質保証については、岡山理科大学が第3期の認証評価を受審し適合をいただくなど、種々の取り組みにおいて一定の評価を得ることができました。今回の事業評価と改善点を踏まえ、また将来像へのギャップを克服するため、加計学園ビジョン2026に基づいた設置校ビジョン及び第2期中期計画（2022～2026）を新たに策定し、学園全体で来年度より次なる段階へ進んでいく所存です。

近年、我が国は急速に少子高齢化が進み、2040年には18才人口が88万人まで減少すると予測されています。地方においてはコロナ禍の影響もあり、地域経済の縮小化などが見られ、地方の活力を取り戻すことが地域社会の大きな課題となっています。これらの課題に果敢に取り組むべく学園の教育研究資源と人的資源を用いて、自治体及び産業界との産学官連携により持続可能な社会の実現にも寄与してまいりたいと存じます。

我々は建学の理念とミッションのもと、各設置校が掲げた中期目標の達成に向けて教職協働で取り組むことで、教育機関としての社会的責務を果たしてまいりたいと存じます。